

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100073		
法人名	南医療生活協同組合		
事業所名	生協のんびり村 グループホームほんわか		
所在地	愛知県東海市加木屋町栗見坂12-1		
自己評価作成日	平成30年11月 1日	評価結果市町村受理日	令和元年 6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2394100073-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生協のんびり村は、法人が施設をつくりません。ではなく、地域の方々の強い想いでつくられた場所。今年10周年を迎え、NHKでものんびり村が放送され見学者も増え、10周年記念行事では今まで以上の地域の皆様が遊びに来ていただきました。
グループホームほんわかでは、私の笑顔をあなたにも。昨日できたことは今日もできる。皆さんのやりたいことを実現します。3つの職場理念を基本とし、今年度は「ダメと云わずに笑顔でいこう」を目標とし、利用者さまへの言葉の否定を意識しています。
ほんわかの今を大切に、開設当初の気持ち・地域の方の想いを忘れず、引き継いでいきます。敷地内には3施設あり、イベントは合同で行っています。施設全体が木材でつくられ、四季・自然を感じられる環境となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この1年を振り返り、職員育成の成果が顕著に表れ出したのが職員の自主性である。「職員同士で意見交換が活発になり、情報共有と周知が図れるようになって来た」と、管理者の感想がある。過去には、「困ると管理者に」のスタイルが根付き、自主性が感じられなかったという事であるから、見事な成長ぶりである。今後の取り組み継続で、職員間で話し合い、職員の方で解決できるようになるまでに成長してほしいものである。
ホームは「のんびり村」の一部である。村全体で高齢者支援を考え、本人の出来ないこと支援を実践している。他施設あり、喫茶店在り、地域交流室在りの環境で、広い敷地を散歩もできる。のんびり村の中で第二の「馴染み」ができるだけの「人」がいる。ホームの利用者も、その環境の中で、文字通り、のんびり、のびのびと生活している。その暮らしぶりに、県内外の見学者は多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所の目に付きやすい場所に貼り、常に意識できるよう努めており、自然と実践できている。	いつも理念を意識できるように掲示をしている。管理者は、理念に基づく支援の在り方を指導し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント毎に地域にお知らせし関わりを持っている。また、地域のイベントにも参加させて頂き交流を図っている。 小学校の先生の研修・小学生の見学交流も毎年恒例となっている。	敷地内の地域交流室を開放し、外部者の来訪を推進している。習字教室など、利用者が参加できるものには積極的に参加し、交流を図っている。 恒例の餅つき等の、のんびり村のイベントには、たくさんの地域の人たちが集まり、にぎやかな交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や組合員、地域の方々に取り組みを発表したり、毎月介護や医療についてテーマを決め、学習回を開催している。 木曜日には、オレンジカフェを行い。村の保健室として、地域の方々の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議・事業所内での「おちえはいしゃく会」で、事業所の課題、困った事、行事等の相談を地域の方々にし、一緒に考え実施している。	年6回の会議を開催している。家族、地域包括支援センター、地域住民等のメンバーが集い、ホームの運営報告を基に意見交換を行っている。地域包括支援センターからは、地域行事や地域包括支援センターが主催するイベントの情報提供があり、交流のきっかけにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年、運営規程の見直しの時期に担当者にアドバイスを頂いている。また、運営推進会議の報告書を毎月提出している。困った事があると電話連絡、または講習会の時に尋ねている。	広域連合との連携が主になり、運営に関わる報告・相談を通じ、適切な助言・指導を仰いでいる。今年度は「大きくなったら何になる、夢広がるお仕事体験」を南医療生協の東海市ブロックが主催し、後援を行政にお願いして協働を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関への施錠はせず職員が複数いる時は、見守りのもと自由に外出できるようにしている。どんな事も否定しない事を意識し、なぜその行動を取ったのかを考えるようにしている。	委員会設置、指針を作成し、法の定める体制を整備している。3ヶ月毎の委員会開催を継続中で、検討内容の職員周知方法はスタッフ会議で行い、意識と理解の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、法人外の勉強会参加を促すとともに、事業所でも勉強会を実施し、話し合いをするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度を活用している入居者さまはいないが、法人外学習会へ参加し、参加者が学んだ事を事業所で報告するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と納得については、ご家族様、入居者さまとの時間を十分とり、お話をしている。また、日々の関わりから、なんでも言ってもらえるような関係作りをしている。介護保険改定時には、項目をあげ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時に御家族様には要望を聞き、反映している。行事やお出掛けの際は参加の声かけをし入居者さまとの関わりを持って頂き、感じたことを聞くようにしている。	毎年恒例のんびり村全体での家族会実施で、外部者との交流や意見交換の機会を作っている。家族への運営理解促進を目的に、全体的な見学をしたり、映画を見たりと趣向をこらし、法人全体、施設全体の運営に興味を持っていただき、意見や提案を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員・個別での飲み会を定期的に開催しコミュニケーションを図り、より良い関係作りに努め、会議やミーティング時に気兼ねなく何でも言い合い認め合える関係が出来ている。	月1回の職員会議では、ケアカンファレンスも含め、活発に意見交換を行っている。次月の議題をノートに記録し、時間を有効に活用できるように工夫している。年1回の個人面談においても、運営・支援に関わる意見や提案を聴き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、休曜日など、できる限り要望を聞き入れ、職場環境・条件の整備に努めている。また職員の能力、努力を認め、評価している。 楽しいと思える職場をめざしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の学習会、研修会のお知らせをし、個々に必要な学習会を勧めている。また、スタッフ会議の時間に勉強会を組み込み、全員が参加できる仕組みを作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月でグループホーム連絡会を開催しており、日々悩んでいる事等を言い合い、情報交換している。横の繋がりで、空き情報も解り、紹介できるようになっている。入居に繋がった利用者さまもおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のコミュニケーションの中で寄り添う介護を実践し、その方の生活歴を知るよう努めている。また、ご家族様から情報を聞いたり、日々の様子から何を想っているのかを感じることができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様面会時、積極的にコミュニケーションを図り、日々の様子を伝えている。また、困った事や不安な事は早急に対応するよう努めている。来て頂いた時には必ずお茶を出し、良い事も悪い事も近況報告をし、理解をして頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床であっても相談、見学、申し込みを受け付けており、他のサービスを含めて必要な援助が受けられるよう提案している。また、必要であれば法人問わず他の事業所の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さまの思いに共感し、行きたい所ややりたいことがあれば、寄り添い対応するよう努めている。また、入居者さまだけが楽しむのではなく、共に楽しめる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の受診ではご家族様に協力をお願いし、正月、お盆、誕生日などは家族と共に過ごして頂く機会の提案をしている。なにかあればすぐに報告をし、ご家族様が知らなかった。と、いう事が無いようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さまのなじみの場所。思い出の場所へは行くよう心掛けているが、近場に限られてしまう。しかし、特別な日(誕生日等)には遠出ができるようにご家族様と相談している。現在、教会へ通っている方もおられる。	家族外出で、通院、お墓参り、美容院等への外出や、自宅外泊をする事例がある。友人・知人と、教会に出かけたり、喫茶店に出かけたりと、馴染みの場への外出事例は多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々入居者さまの関係性を考え、座席を工夫しており、一人である方には、雰囲気、状況を察し、寄り添うよう心掛けている。また、食事作り、洗い物、食器拭き、洗濯物など、協力しておこなえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、病院・施設を訪ねたり、お出かけの際のお誘いの連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己にて思いや希望を言うてくださる方へはもちろんの事、思いを伝える事が難しい方は、ご本人の言葉、生活歴からどのような暮らしを求めているかを推測し、できる限り近づける努力をしている。	利用者担当制で、お便り作成や随時の連絡、面会時の報告や、家族意向の聴き取りを受け持っている。情報提供することにより、家族からも意向が出やすく、本人意向と併せて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者さまの生活歴を把握し、日々の会話に取り入れて安心感を持って頂けるようにしている。生活歴は、担当職員に任せ アセスメントしてもらっている。ご家族の協力もあるので、ご家族も新たな発見もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わった出来事などは、記録、申し送りを通して、職員が休み日のできごと把握できるようにしている。また、その時のご本人の思いを受け入れ、無理強いしないように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族さまが、これからどのように過ごしていきたいかなど、その想いを介護計画に活かしている。また、介護計画書にはご本人の写真や、言葉・職員の気持ちを載せている。解りやすく見やすく楽しい計画書を目指している。	毎月のモニタリングを実施し、利用者の状況を観察している。更新時(基本6ヶ月毎)のケアカンファレンスで職員意見を集約し、本人と家族の意向重視の介護計画を立案している。	本人・家族と立案後の話し合いはあるものの、更新前のモニタリング(評価)方法に一考の余地が感じられる。本人及び家族の、サービス担当者会議参加等、検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日誌、経過表を通して情報共有し、状態の変化に対応できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ会議では必ず、利用者さまへの対応を、職員が意見を出し合い、話し合い、その時の状況に合わせた支援が臨機応変にできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者さまがよく行っていたお店や、なじみの場所へ行くようにしている。定期的にハーモニカ・紙芝居のボランティアさんが来て下さり、皆さん楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回内科の主治医が訪問診療に来ている。また、週1回の訪問看護、その他歯科、皮膚科、マッサージは往診に来てくださっている。緊急時は主治医の診療所に受診している。毎週来る訪問看護も主治医との連携ができています。	ホーム協力医が法人内診療所の訪問医である強みで、利用者との関係性の距離も近く、馴染みの医療受診の実現がある。月1回の訪問診療と医療連携の訪問看護の週1回の訪問で、利用者の健康管理を支援している。協力医以外の受診は家族対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回定期的に訪問看護がきているので、記録、申し送りで情報共有している。また、必要な時には24時間いつでも相談、報告をして指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、医師、看護師との情報交換をおこない早期退院できるようにしている。退院に向けての調整が必要な時には、カンファレンスをしている。また、こちらからお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については看取りについての指針があり説明しており、ご本人・ご家族さまとお話し、「私の指示書」に記入して頂き、定期的に見直している。また、重度化が予測される場合は医師・看護師・職員・ご家族さまとの話し合いをする場を作っている。	終末期支援については、本人と家族の意向に沿って、ホームでできる支援提供を方針としている。看取り前提で退院するケースもあり、家族と話し合いを重ね、家族の不安にも応えている。最終的には医師の判断となるが、医療機関、他施設移行も含め、本人にとって最善の、ホームのできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがあり、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から地域の方との交流を深め緊急時には協力依頼ができるようになってきている。また、定期的な避難訓練を実施。	年2回の避難訓練を実施している。消防署の立ち会いもあり、のんびり村全体で避難経路や避難方法の指導を受けている。通報・消火訓練も実施があり、高い意識で有事に備えている。飲食物や備品の備蓄も村全体で行い、助け合いの体制を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時と場合によっては、なれなれしい言葉を使う時 も多々あるが、日々の関係性が出来ているから こそ、入居者さま自身も受入れてくれている。し かし、それが当たり前にならないよう、会議など で言葉について話し合う場を設けている。	利用者を年長者として敬い、人生の大先輩として 「教えていただく」意識を共有している。暮らしの馴 染みで、馴れ合いになりがちな関係性を、利用者 の表情や態度も含めて観察し、不快な思いをさせ ない接遇を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーション、生活歴より、ご本人の 希望に寄り沿えるよう心がけている。ご家族さま からの情報も聞きながら情報を得ている。ご本人 さまが自己決定できるように、どんな言葉でも聞き 逃さないようにしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	時間はあってないようなものと考え、基本的 には個人のペースで生活して頂いている。 外出等の希望には傾聴し、できる限り対応 できるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	起床時の顔拭き、整髪、定期的な爪きりは自己 にてできる方は自己にて。自分で好きな服を着る 利用さまもいるが、あきらかにおかしい時には着 替えて頂くようにしている。職員にて服を選ぶ際 には、同じものばかりにならないよう、意識してい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者さまの好みを職員が共有し、献立に反映 している。また、外食の際には、自己にて選び好 きな物を食べて頂いている。 毎日、料理に多くの入居者さまが関れるように努 めている。	食材配達のサービスを活用し、メニューに沿って 食材を注文している。調理はできる限り利用者 と一緒に、職員は利用者のできないことの支援 に徹している。仕事の分担を行うことにより、やり がいや居場所づくりの支援につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事・水分はチェック表を活用し水分摂取が少な い方や好まない方には利用者さまに合わせてゼ リー等を提供している。また、糖尿病の方への食 事の配慮、体重増減、血液検査の数値の把握に 努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	義歯洗浄、歯磨き、うがいは、夕食後に実施。 拒否が強い方はできないこともある。 また、口の中に溜め込んでしまう等、その時々で 行っている。 歯科と連携をとり初めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないよう、時間をみでの声かけ、誘導をしており、必要な方は職員が介助している。 入居者さまが落ち着かずウロウロしたら、声かけをし、トイレなら誘導する。ズボンの上げ下げができる方へは最低限の介助で見守る。	トイレでの排泄を基本に、一人ひとりの状態に合わせた方法で、適切に支援している。見守りから全介助まで、様々な状態の利用者に対し、声掛けや時間誘導等を支援し、場所が分からなくなる利用者には、場所誘導も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方へは水分を摂って頂き、自然排便を促しているが、内服薬にて排便コントロールしている方が多い。歩ける方にはできるだけ歩いて頂くようにしている。 食事の内容にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	熱いお湯やぬるいお湯、それぞれの希望を聞き対応している。羞恥心から拒否ある方へは無理強いせず介助者を同性にする等対応している。	毎日の入浴を提供し、毎日入りたいという希望にも対応している。清潔保持の観点から、週2~3回の入浴ができるように入浴管理を行っている。入浴が楽しみの時間となるように、コミュニケーションにも工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで休息してもらっている。その際、照明にも気を配っている。 季節や気温の変化には、寝具やエアコンで調整している。夜間起きてこられた際は、声かけし希望に沿うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さまが飲んでいる薬の効用と副作用がわかるように、処方箋を経過表と共に綴じている。疑問がある際には、薬剤師に聞くようにしている。誤薬が無いように仕分け、声だし確認等、工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さまの生活歴や得意なことを活かした支援を行なっている。料理や洗濯、掃除、買い物、見学の対応など、できることを無理強いする事なくやって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員では月1回のお出かけと外食を行い、時に個別での外出(喫茶店など)もしている。また、ご家族さまが外食に連れて行ってくださることも多い。 日常では、散歩・買い物・喫茶店へも出かけている。	村内散策の自主散歩、気分転換の散策は日常的で、村内(敷地内)には大勢の高齢者の方の行き交う姿がある。敷地内他施設の利用者もあまって、喫茶店や地域交流室の催し等で顔を合わせるのがホーム利用者だけではない環境がある。家族外出の機会も多く、思い思いに外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理し、買い物の時などにお金を使えるように支援している。また、自己にてお金を払って頂くよう心掛けている。 一緒にご本人の希望するものを買に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をする。手紙が来たり、贈り物が届いた時には本人からお礼の電話をしている。 年賀状を書いてくださる、利用者さまもおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、職員と入居者さまと一緒に掃除。布団干しをしており、危険がないよう、居室、廊下等の環境整備にも努めている。	共有空間の環境整備を目的に、不要な物を処分し、スッキリした印象になり、ログハウス風の建屋の良さが感じられる。利用者にとっても、床等に物が置かれていない環境は、安全面からも評価できる。季節の飾りつけもさりげなく、「高齢者の住まい」を意識した空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者さま同士が、近い座席の配慮をしている。また、ご本人の落ち着く場所を把握し、その都度対応している。 同敷内の住宅から来た方は、行き来して、今まで話していた人とも変わらない付き合いをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、家具等、ご本人が使い慣れて愛着がある物を居室に持ってきていただき、自宅同様落ち着いて暮らしていただく工夫をしている。 また、ご家族さまとの写真や好きな物、ご本人の作品なども飾ってある。	入居時には、馴染みの物品の大切さや環境変化の弊害についてお話しし、使い慣れた物品の持ち込みをお願いしている。布団やベッド、衣紋掛け、タンス、ソファ等多くの持ち込みがあり、思い思いに環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレの場所がわかりやすいように表示してある。転倒の危険がある入居者さまの居室には、手すりになるように家具を配置している。		